国指定史跡高宮廃寺跡内容確認発掘調査　現地説明会資料

平成26年12月13日（土）

寝屋川市教育委員会

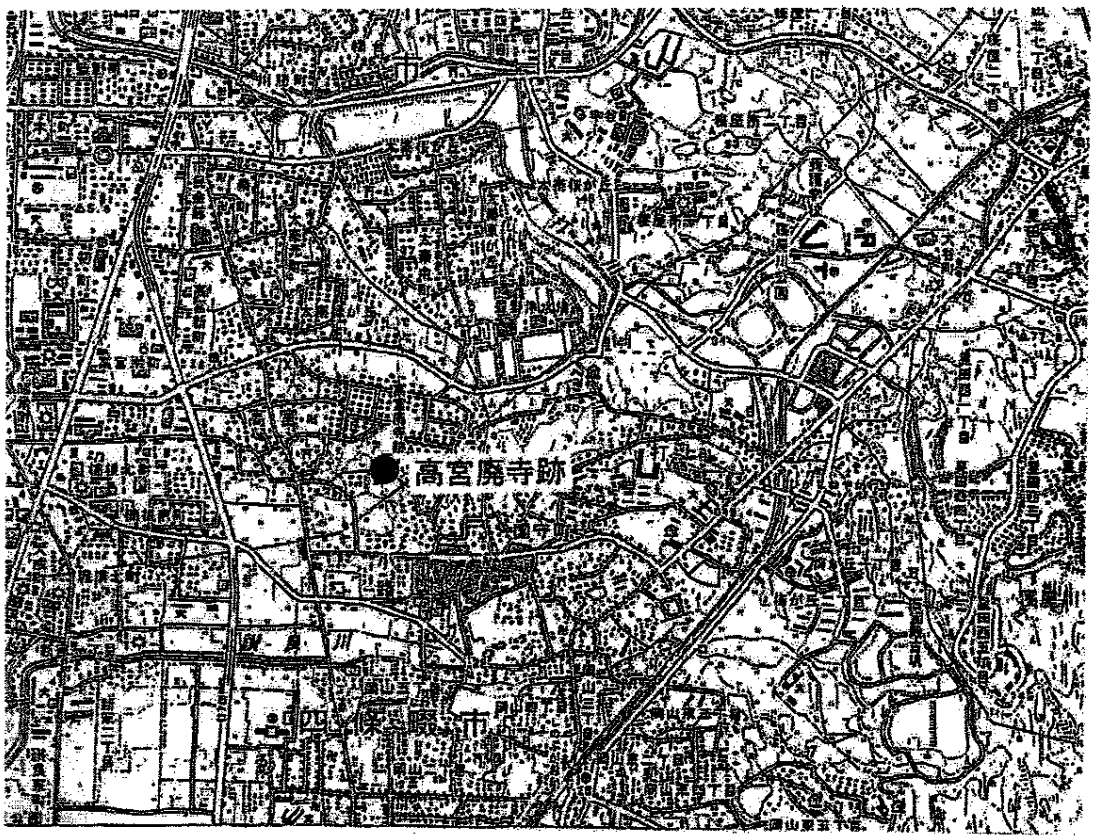
文化スポーツ振興課

はじめに

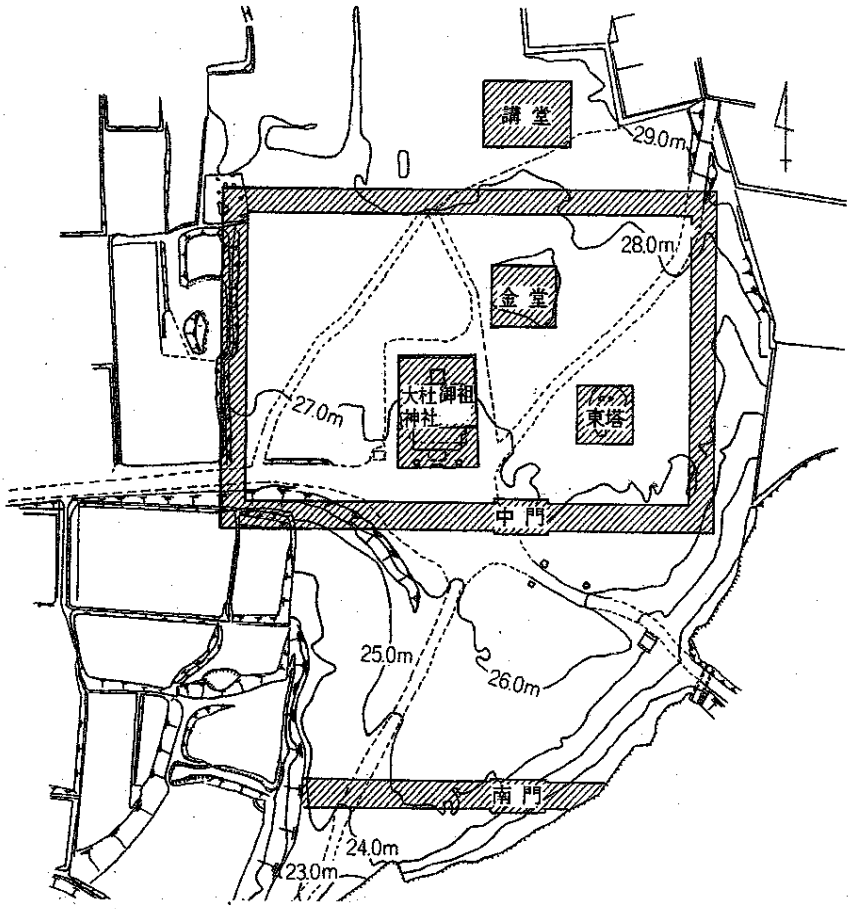
高宮廃寺跡は寝屋川市の南東部の高宮２丁目に所在する国指定史跡です。寝屋川市東部は生駒山地から西側にのびる標高約30～50mの丘陵が広がっており、遺跡はこの丘陵上で南に向かって緩やかに低くなる傾斜地上に立地しています。

この地には延喜式内社（えんぎしきないしゃ）の大杜御祖（おおもりみおや）神社が鎮座しており、寺域のほとんどが境内地となります。境内には堂塔の基壇（きだん）と考えられる高まりや礎石（そせき）が残されており、昔から古代寺院の存在が知られていました。

高宮廃寺跡周辺では寺院を造営した氏族（しぞく）が居住したと考えられる高宮遺跡が広がっており、丘陵上で最も見渡しのよい頂上部に氏寺（うじでら）があり、それに並存する形で氏族が居住していた様子が窺（うかが）えます。



高宮廃寺跡位置図（1/25,000）



高宮廃寺跡伽藍配置図（1/1,250）
（『寝屋川市史』第一巻より抜粋）

これまでの調査

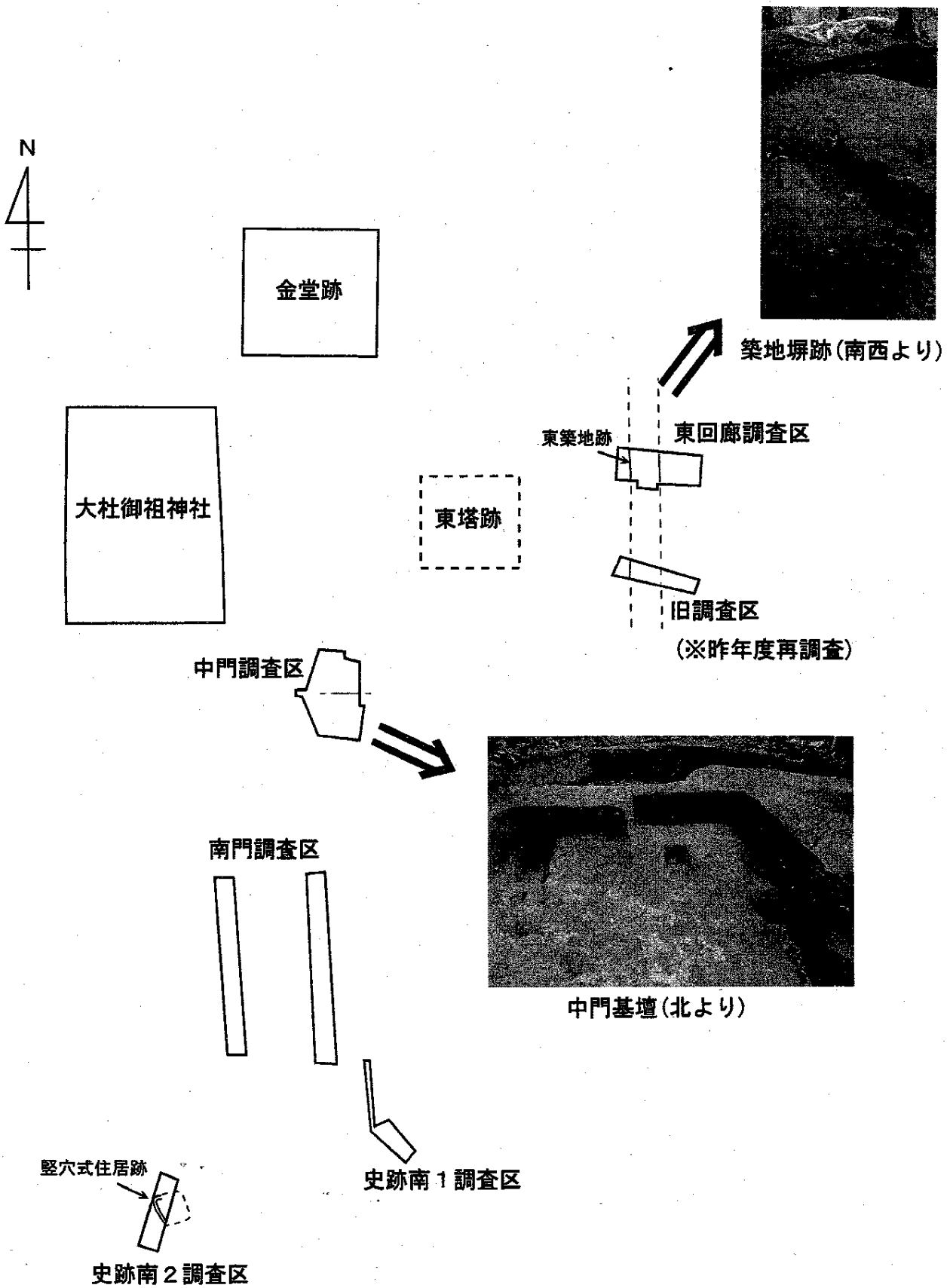
昭和28年に大阪府教育委員会により東塔の発掘が行われ、寺院の創建が白鳳時代（飛鳥時代後半：7世紀後半）と判明しました。さらに地形測量により、双塔式伽藍配置[1]と推定されました。

昭和54年には寝屋川市教育委員会による主要伽藍の位置確認と遺跡の範囲の確認を目的とした発掘調査が行われました。この調査により、各建物の規模と伽藍の様子が明らかになりました。この時出土した瓦は7世紀後半のもの（素弁八葉蓮華文軒丸瓦・複弁八葉蓮華文軒丸瓦）と8世紀のもの（複弁四葉蓮華文軒丸瓦・唐草文軒平瓦）、13世紀から14世紀のもの（巴文軒丸瓦・唐草文軒平瓦）と大きく3時期に分類できます。このことから高宮廃寺跡は白鳳時代（7世紀後半）に創建され、奈良時代にかけて営まれたあと廃絶し、中世に一時期再建されたと考えられます。

この調査の翌年（昭和55年）に国指定史跡に指定されました。

---

[1] 金堂の前に塔を二基配置する伽藍のこと。



平成26年度国史跡高宮廃寺跡内容確認発掘調査
調査区配置図（S＝1/500）

今年度の調査

今年度は中門跡・東回廊・史跡南側部分の解明を目的に調査を行いました。

○中門調査区

過去の調査区の再発掘と、その調査区の拡張を行い中門跡の基壇を検出しました。調査の結果、中門基壇[2]の版築[3]状況が確認できたため、中門の位置が確定しました。基壇の規模や構造については、今後の調査で解明します。

○東回廊調査区

平成25年度の調査で、過去の調査区の再発掘を行いました。その際、回廊基壇と考えられる土壇を確認しました。今年度はその調査区から約7メートル北に新たに調査区を設けました。

昨年度確認した土壇の続きが検出されました。これまで回廊基壇と考えられておりましたが、今回土壇の幅が確認できたことで、この土壇が築地塀であることがわかりました。基底部の幅は2.7～2.9mとなります。

○南門調査区

これまで明らかにされていなかった南門跡を確認するために、南北に長い調査区を2本設定しました。

南門跡に関連する遺構は現在まだ見つかっておりません。

○史跡南調査区

史跡南部分の土地利用や堆積している層の状況を確認するために、過去の調査区の再発掘と拡張調査を行いました。その結果、史跡南2調査区から高宮廃寺造営以前と考えられる竪穴式住居跡1棟を確認しました。高宮廃寺跡の西側で調査された高宮遺跡からは高宮廃寺跡に先行する建物跡が確認されており、それに関連する建物跡と考えられます。

今後の調査

来年度以降、東塔・講堂・回廊等の伽藍を中心に発掘調査を実施し、高宮廃寺跡の整備・活用を考えるための史跡の解明を進めていく予定です。

---

[2] 周辺の地盤より高く土を盛り上げて建物の基礎としたもの。

[3] 強固な基盤を作るため、交互に土を入れて突き固める作業。